

証券コード：7575

第38期
報告書

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日

...for patient comfort.

JL Japan Lifeline

主要連結財務データ

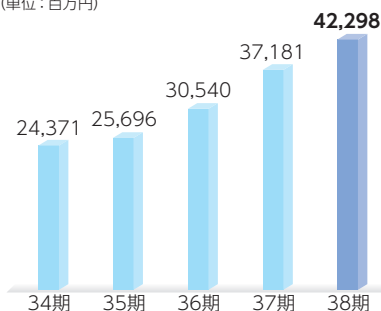
Financial Highlights

2018年3月期 決算のポイント

- 自社製品、仕入商品の伸長による2桁増収
- 高収益品の伸長、子会社合併に伴う未実現利益の調整により売上総利益が増加
- 上記2要因により販管費の増加を吸収し大幅増益

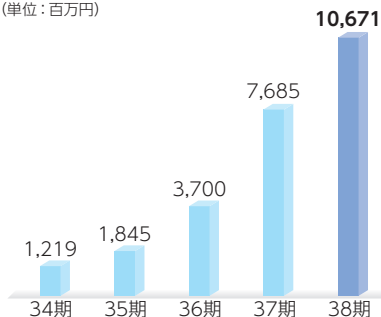
売上高

(単位:百万円)



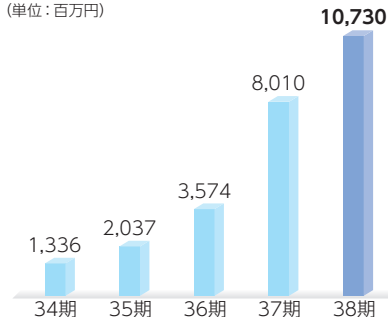
営業利益

(単位:百万円)



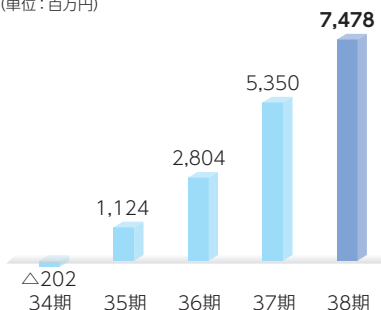
経常利益

(単位:百万円)



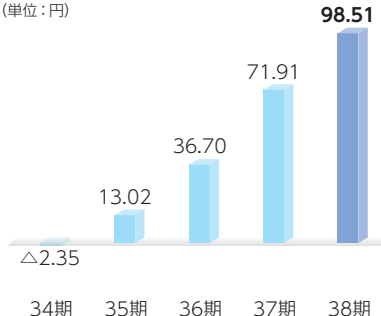
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



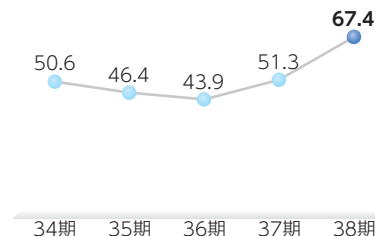
1株当たり当期純利益

(単位:円)



自己資本比率

(単位:%)



当社は2015年10月1日、2016年12月1日および2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。34期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年3月期は症例数の増加を背景として、引き続き自社製品が伸長したことに加え、仕入商品についても、競争力ある製品の上市によるシェア拡大や、きめ細かな販売網の構築を通じた拡販が奏功し、大幅な増収となりました。また、一層の事業規模の拡大に向けた、大型商品の導入準備も着実に進んでおります。当社といたしましては、今後も中長期的視点に立ち、メーカー・商社機能の双方を強化することで、さらなる成長を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

Q 2018年3月期の業績概要について教えてください。

A 2018年3月期の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおきましてMRI(磁気共鳴画像)検査対応ペースメーカーが堅調に推移し、市場シェア15%を回復したほか、EP/アブレーションでは心房細動のアブレーション治療の症例数の増加により、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT(ビート)」をはじめとする心房細動治療の関連商品が伸長いたしました。さらに外科関連におきましては、オンリーワン製品で自社製品でもあるオープンステントグラフト「J-Graft FROZENIX

(ジェイ・グラフト・フロゼニクス)」等が堅調に推移いたしました。インターベンションでは、末梢用バルーンカテーテル及び心房中隔欠損閉鎖器具が伸長いたしました。以上により、2018年3月期の連結売上高は、前期に比べ13.8%の増収となりました。

利益面におきましては、収益性の高い品目の伸長が寄与したことに加え、連結子会社の吸収合併に伴う未実現利益の調整もあり、売上総利益率は前期に比べ3.6ポイント改善いたしました。また、販売費及び一般管理費におきましては旅費交通費等や、自社製品強化のための開発費用等が増加いたしました。売上総利益の増加により吸収し、営業利益は前期に比べ38.9%の増益となりました。

Q 導入予定の新商品について教えてください。

A 2019年3月期の新商品としては、まず、内視鏡アブレーションシステム「HeartLight(ハートライト)」が挙げられます。これは心房細動のアブレーション治療の効率化と安全性向上が期待される医療機器であり、EP/アブレーションの中でも当社の市場シェアが低い治療用の商品であることから、今後の当社業績へ大きく寄与するものと期待しております。さらに外科関連では、縫合が不要であり、手術の低侵襲化に寄与するスーチャレス生体弁「PERCEVAL(パーシバル)」の導入も予定しております。

両商品ともに医療現場への浸透には時間がかかるため、2019年3月期業績への寄与は限定的となる見通しですが、いずれも新たな治療方法を提供できる画期的な新商品であることから普及に努めてまいります。



内視鏡アブレーションシステム「HeartLight(ハートライト)」
左：カテーテル 右：コンソール

Q 2019年3月期の見通しはいかがでしょう。

A 販売面におきましては、本年4月の保険償還価格の引き下げによる影響があるものの、心房細動のアブレーション治療の症例数の増加により関連商品の伸長が期待されるほか、本年3月に発売した薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro(オシロ)」の通期での寄与が見込まれます。

利益面におきましては、売上総利益において、前期に生じた子会社合併に伴うプラス効果がないことや、公定価格改定による売上総利益への影響が見込まれます。また販売費及び一般管理費におきましては、新商品関連の広告宣伝費のほか、自社製品の一層の拡充に向けた開発費用、新商品の薬事承認取得に向けた治験費用等が増加する見通しです。したがって、売上の増加に対し、利益面での成長は低くなる見通しですが、中期的な観点から必要となる先行投資については、着実に実施してまいりたいと考えております。

■ 2019年3月期業績予想

売上高	49,411百万円(前期比16.8%増)	▲
営業利益	11,202百万円(前期比 5.0%増)	▲
経常利益	11,482百万円(前期比 7.0%増)	▲
当期純利益	7,825百万円(前期比 4.6%増)	▲

Q 中期的な成長イメージについて教えてください。

A 当社では自社の成長基盤をメーカー機能と商社機能を併せ持つことであると考えております。収益性の高い自社製品のみに絞り、完全なメーカーを目指す方向性もありますが、当社としては自社技術のみに縛られることなく、最新の医療機器を患者様はじめ、国内の医療の現場へ提供することが我々の責務であると考えております。また事業戦略上においても、仕入商品のラインナップを有することは、当社が強みを持つ循環器領域におけるプレゼンスを維持・拡大するためには有効であります。

この商社機能の拡大とともに進めているのが、強みを持つカテーテル関連の技術の高度化による製品競争力の強化や、自社で培ってきた技術を応用することによる他領域への進出です。昨年6月には大腸ステントの上市により、消化器領域への進出を果たしておりますが、本年4月にはリサーチセンターの新棟も稼働いたしましたので、さらに自社製品開発に注力してまいります。

また、自社製品の課題としては海外販売の本格化が挙げられます。オープンステントグラフトの輸出も一部が始まっておりますが、現時点の中期見通しにおける業績への寄与は限定的であることから、引き続き重点課題として取り組んでまいります。

こうした状況を踏まえ本年5月には中期経営計画を更新し、2023年3月期の売上目標として777億円を定めております。当社といたしましては、メーカー機能、商社機能をともに高めていくことで、さらに高いレベルでの成長を目指してまいります。

Topics

リサーチセンター新棟が稼働



当社の研究開発の拠点であるリサーチセンターの新棟が本年4月より稼働を開始いたしました。従来、リサーチセンターと戸田ファクトリーは「メディカル・テクノロジー・パーク」に併設されておりましたが、同施設の向かいの土地に、新たに新棟を建設し、リサーチセンターを移転いたしました。

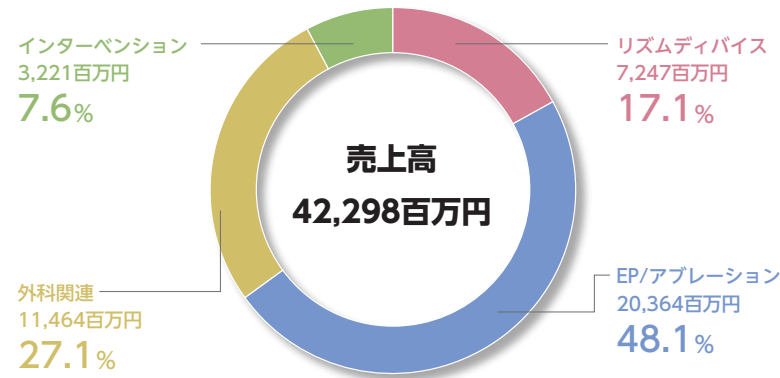
この拡充を受けて、既存の施設を「メディカル・テクノロジー・パーク・サウス・スクエア」として呼称を改め、新棟を新たに「メディカル・テクノロジー・パーク・ノース・スクエア」といたしました。研究開発と製造が密接に連携できるメリットを生かしたまま、両機能がともに拡張されたことにより、当社の開発生産を牽引する中核拠点が強化されましたので、優れた医療機器の開発・製造に一層注力してまいります。

所在地：埼玉県戸田市
敷地面積：3,679.90㎡
延床面積：4,589.75㎡
構造：鉄骨造・5階建

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比
17.1%

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカにおきましては、一昨年3月に販売を開始した条件付きMRI(磁気共鳴画像)検査対応ペースメーカ[KORA250(コーラ250)]の販売が堅調に推移いたしました。また、昨年6月にペースメーカリード[VEGA(ベガ)]を導入し、MRI検査に対応したペースメーカリードのラインナップが充実したことも、ペースメーカの販売数量の増加に寄与いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は、72億4千7百万円(前期比9.5%増)となりました。

売上高 (単位: 百万円)



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比
48.1%

主要取扱品目

- EP (電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 食道温モニタリングカテーテル
- 高周波心房内隔穿刺針



EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数が増加しており、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル[BeeAT(ビート)]を中心に販売数量が伸びました。また、仕入商品であり国内では当社のみが販売する高周波心房内隔穿刺針[RFニードル]につきましても、同じく症例数の増加に伴い、前期に比べ販売数量は増加いたしました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、203億6千4百万円(前期比16.2%増)となりました。

売上高 (単位: 百万円)



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

売上高構成比
27.1%

主要取扱品目

- 人工血管
- ステントグラフト
- 人工弁輪
- オープンステントグラフト
- 人工心臓弁
- 血液浄化関連商品



人工血管関連におきましては、腹部用ステントグラフト[AFXステントグラフトシステム]および、その改良品であり本年1月より本格販売を開始した[AFX2ステントグラフトシステム]の販売数量が増加いたしました。また、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト[J-Graft FROZENIX(ジェイ・グラフト・フローズニクス)]につきましても一層の普及が進み販売数量が増加いたしました。

以上により、外科関連の売上高は、114億6千4百万円(前期比11.8%増)となりました。

売上高 (単位: 百万円)



インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比
7.6%

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル
- 心房中隔欠損閉鎖器具
- 薬剤溶出型冠動脈ステント



バルーンカテーテルにつきましては、昨年6月に販売を開始した[MASTULY(マストリー)]が売上の増加に寄与いたしました。その他の品目におきましては、心房中隔欠損閉鎖器具[Figulla FlexII(フィギュラ・フレックスII)]の販売数量が増加いたしました。さらに本年3月には、当社としては初の取り扱いとなる薬剤溶出型冠動脈ステント[Orsiro(オシロ)]の販売を開始いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は、32億2千1百万円(前期比15.7%増)となりました。

売上高 (単位: 百万円)



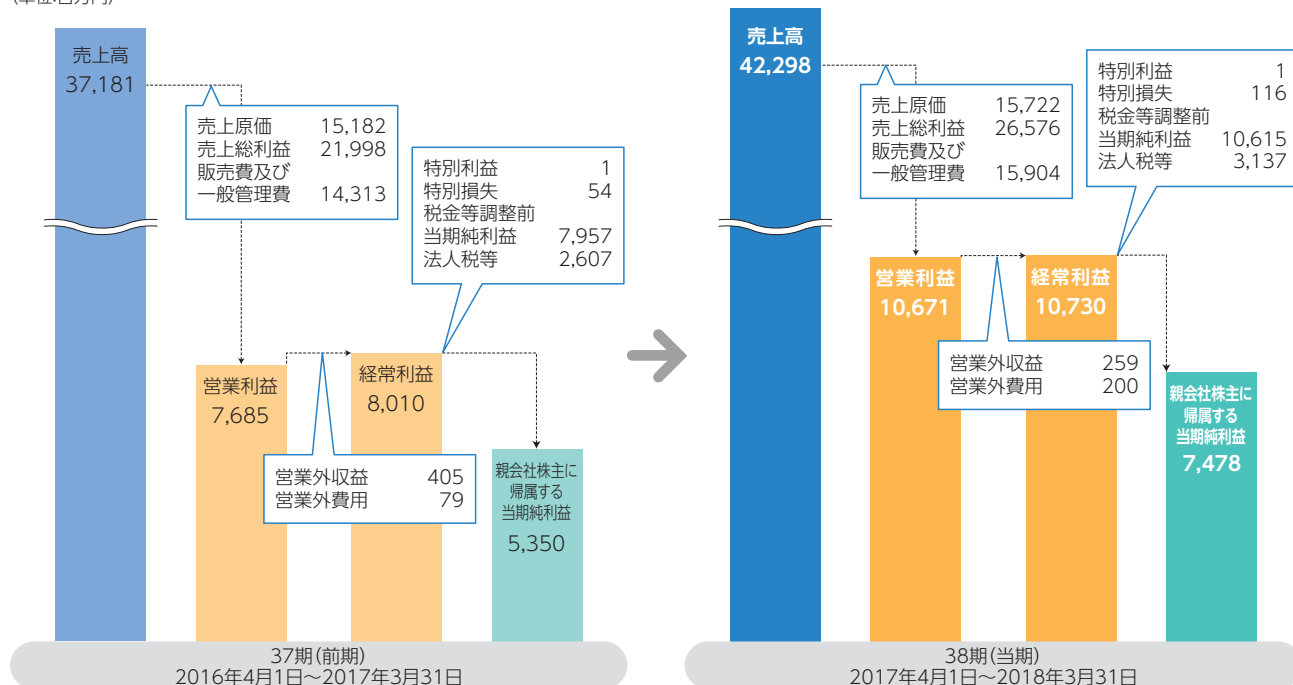
前連結会計年度末まで連結子会社でありましたJUNKEN MEDICAL株式会社が取り扱っていた血液浄化装置等は前連結会計年度まで「その他」の区分で集計しておりましたが、2017年4月1日付で同社を当社が吸収合併したことにより、区分の見直しを行い、当連結会計年度より「外科関連」の区分で集計しております。これに伴い、比較可能性を確保する観点から、第36期、第37期についても組み替えて記載しております。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



営業利益

仕入商品及び自社製品ともに、収益性の高い品目の販売が伸長したことに加え、昨年4月1日付で連結子会社を吸収合併したことに伴う未実現利益の調整として11億7千万円の売上総利益のプラス効果があったことなどにより、売上総利益率が前期に比べ3.6ポイント改善いたしました。

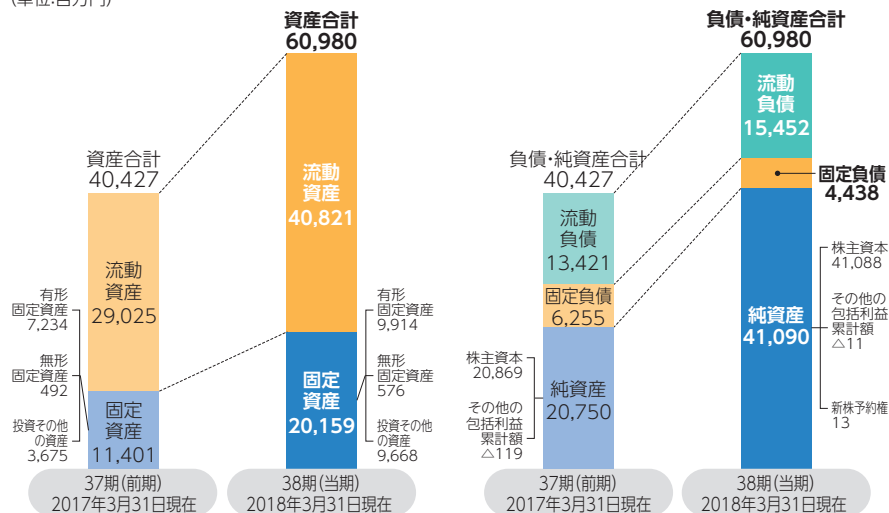
販売費及び一般管理費におきましては、旅費交通費、開発費用及び支払手数料等が前期に比べ増加したこと等により、当期の営業利益は106億7千1百万円(前期比38.9%増)となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

固定資産売却益を特別利益として1百万円計上した一方、子会社工場の工場移転費用及び固定資産除却損等を特別損失として1億1千6百万円計上したことから、当期の親会社株主に帰属する当期純利益は74億7千8百万円(前期比39.8%増)となりました。

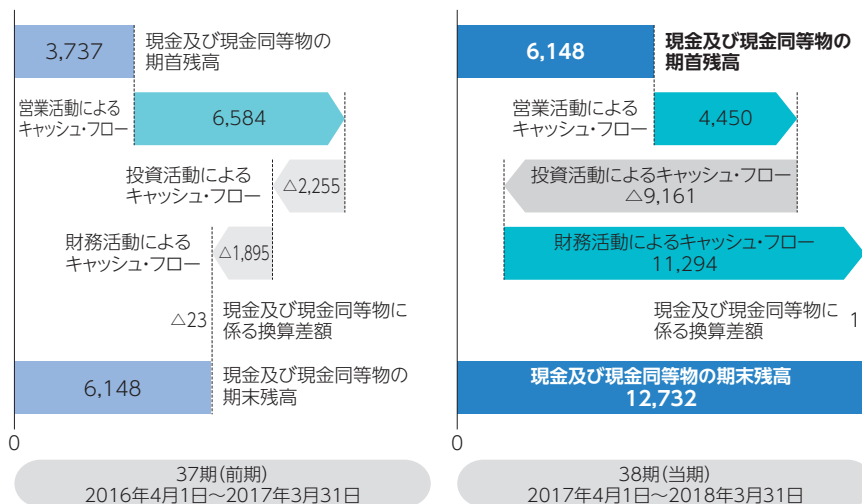
■ 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



流動資産

受取手形及び売掛金が13億3千2百万円、有価証券が59億9千9百万円、たな卸資産が33億7百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ117億9千6百万円増加し、408億2千1百万円となりました。

流動負債

短期借入金が10億円、支払手形及び買掛金が4億4千7百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ20億3千万円増加し、154億5千2百万円となりました。

固定負債

長期借入金が22億2千2百万円減少した一方で、長期未払金が1億9千万円増加し、退職給付に係る負債が1億9千万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ18億1千7百万円減少し、44億3千8百万円となりました。

営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が前期比26億5千7百万円増加の106億1千5百万円を計上した一方で、たな卸資産の増加による支出が33億1百万円、未払消費税の減少による支出が6億2千7百万円(前連結会計年度はそれぞれ2億8千9百万円と2億9千8百万円の収入)となったことにより、前連結会計年度に比較して21億3千4百万円減少した44億5千万円の収入となりました。

会社概況

Corporate Data

■ 会社概要

(平成30年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結906名 単体814名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司

■ 役員

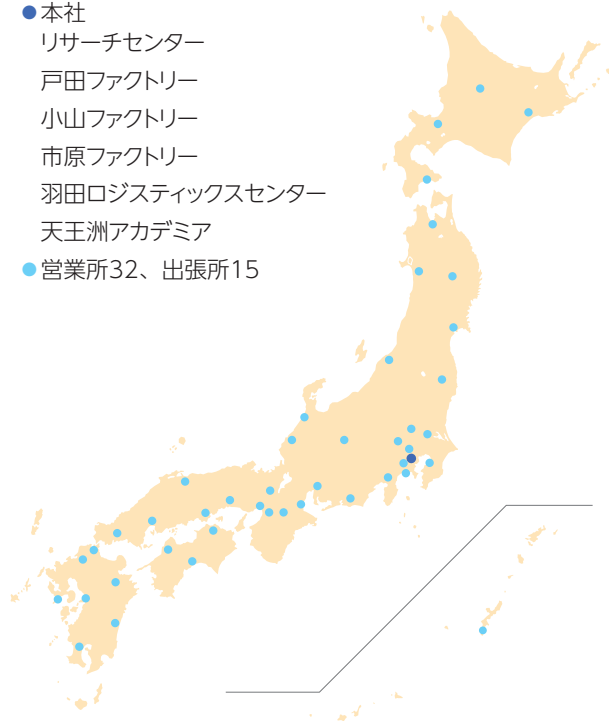
(平成30年6月27日現在)

代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 出井 正
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	取締役 干場由美子
常務取締役 高橋 省悟	社外取締役 佐々木文裕
取締役 黒沼 孝之	社外取締役 池井 良彰
取締役 野上 和彦	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 山田 健二	社外監査役 中村 勝彦
取締役 渡辺 修	社外監査役 浅利 大造
取締役 高宮 徹	

■ 事業所

(平成30年4月1日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティックセンター
天王洲アカデミア
- 営業所32、出張所15



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<https://www.jll.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



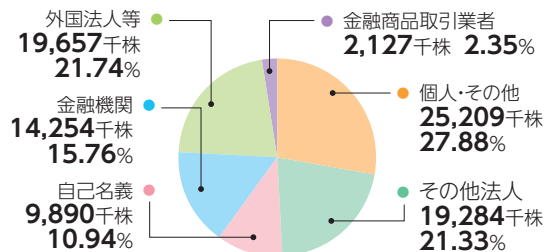
株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数	346,400,000株
発行済株式の総数	90,419,976株
株主数	12,481名

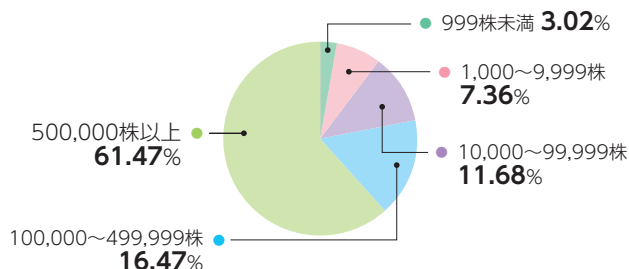
大 株 主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	9,860	12.24
KS商事株式会社	8,768	10.89
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	4,087	5.08
鈴木啓介	2,650	3.29
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	2,221	2.76
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	1,930	2.40
日本ライフライン従業員持株会	1,236	1.54
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,226	1.52
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	1,072	1.33
上田勝啓	1,072	1.33

所有者別株式分布



所有数別株式分布



(注)持株比率は、自己株式(10,005,616株)を控除して計算しております。なお、自己株式には、「役員報酬BIP信託」が所有する当社株式115,800株が含まれております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
 - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。